

【研究ノート】

iDo15+ ～世界の高校生とともに～

国際コミュニティを通して世界の自然災害を主体的に知る

乾航太郎¹，上野晴道¹，ユーツ海琉¹

¹ 長田高校人文・数理探究類型，3年

この世界では毎日様々な自然災害が起こっているが、それらをすべて知るのは難しい。そのため私達は自国以外で起きている災害に対する興味を深める方法を探すこととした。私達は7ヶ国から10代の学生たちを集め、「iDo15+」を設立した。このコミュニティでは1ヶ月に2回ほどミーティングを行い、アンケートの結果を利用して災害に対する参加者の知識や興味の変化を調べた。私達はミーティングを行うたびに参加者の知識や興味が向上している結果を得た。この変化によって相互援助が増加することが期待できる。世界から自然災害がなくなることはない。そのため、このコミュニティは未来で人々が助け合えるようにするために大事である。

キーワード：自然災害，高校生主体の国際コミュニティ，共助

1. 研究の目的と背景

世界では災害復興があまり進んでいないという現状がある。その理由の一つに、復興にかかる負担が被災国やその災害を経験したことがある国だけに集中していることがあげられる。東日本大震災の義援金¹⁾を国別にみると、上位9か国の内7か国が地震、津波を経験したことがある国である。自分に身近な自然災害には支援をしようと考え一方、なじみのない自然災害には支援をしづらいということだ。それは、自然災害について、そもそも知る機会がなく興味をもてず、その結果個人での他国への支援ができていないことが理由だと考えられる。特定の国で起こりやすい地震に関して我々が日本、台湾、アメリカの高校生に取ったアンケートでは、自国で起こりやすい自然災害ほど興味を持ち、知識を得ているということがわかった。また、京都大学が提唱したKIDAモデルでは、実際に行動を起こすためにはまず知識を得、興味を持ち、そしてもっと知りたい、という願望を持つことが大切だと分かっている²⁾。この現状を変えることが研究の目的である。

2. 活動内容・方法

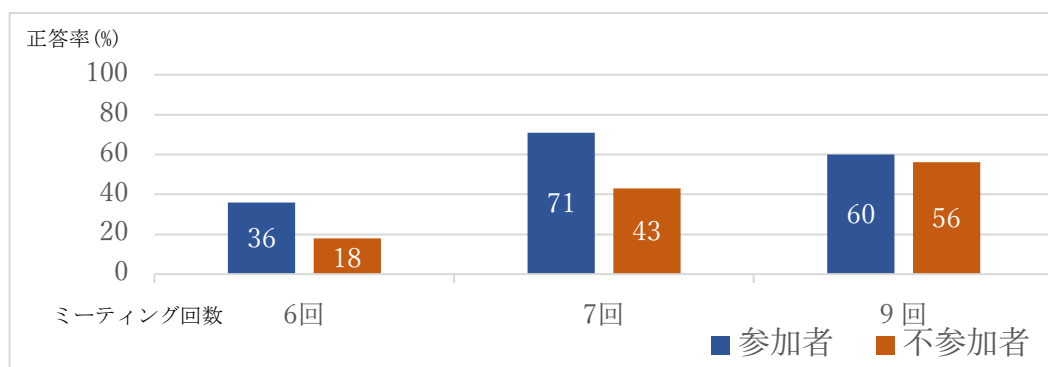
我々は、コミュニティ内での直接的な交流・話し合いを通じて、テレビの報道だけでは知ることができない情報をメンバーの想いとともに交換し合い、コミュニティ内・外での自然災害に関する対外意識向上に努めた。

2.1 オンラインミーティング

1ヶ月に2回ほどZOOMでオンラインミーティングを行った。ミーティングでは、参加者の自国での災害経験を共有する「Share your experience」と、話し合いを円滑に進めるため、各国の文化や日々の生活について話をする「Free talk」という二つの部分に分けて進めた。そして、ミーティングの後にはフィードバックとクイズに答えてもらった。クイズでは、そのミーティングで話し合った内容のクイズと共に最近世界で発生した自然災害についてのクイズも含めていた。ミーティング内容と参加国は（表1）に、クイズの正答率の結果は（グラフ1）に示す。（グラフ1）よりミーティングを行うごとに正答率が上がっていることがわかる。

表1 ミーティング内容

日付	ディスカッション内容	参加国
8/19	オリエンテーション	台湾, カナダ
10/12	日本の震災について	台湾
10/27	各自の国での災害について	台湾, アメリカ
11/24	震災時の防災バック	台湾
12/8	他災害の防災バック, インスタグラム運営開始の説明	台湾, アメリカ
12/22	米国・カリフォルニアでの地震について	台湾, アメリカ
1/11	各国の災害対策について	台湾, アメリカ
1/26	米国のロサンゼルスでの山火事について	台湾, アメリカ
2/15	米国のハリケーン, 豪雪災害の説明	台湾, アメリカ
3/15	トルコでの山火事	台湾, トルコ (当日の参加ではなく別日に意見を聞いてもらった。)



グラフ1 クイズの正答率の結果

2.2 Instagram を活用した SNS での情報発信

実際にミーティングで話し合った内容や学んだことをコミュニティ内に留めるだけでなく、「世界」にターゲットを向けより広域での災害意識向上に取り組んだ。実際に投稿した資料としては、日本メンバーによる「東日本大震災遺構訪問のレポート」、「阪神・淡路大震災追悼集会のレポート」、「ミーティング内容の紹介」などがある。今後更に各国のメンバーが自由にかつ手軽に情報発信を行えるシステムの構築・簡素化を進める。

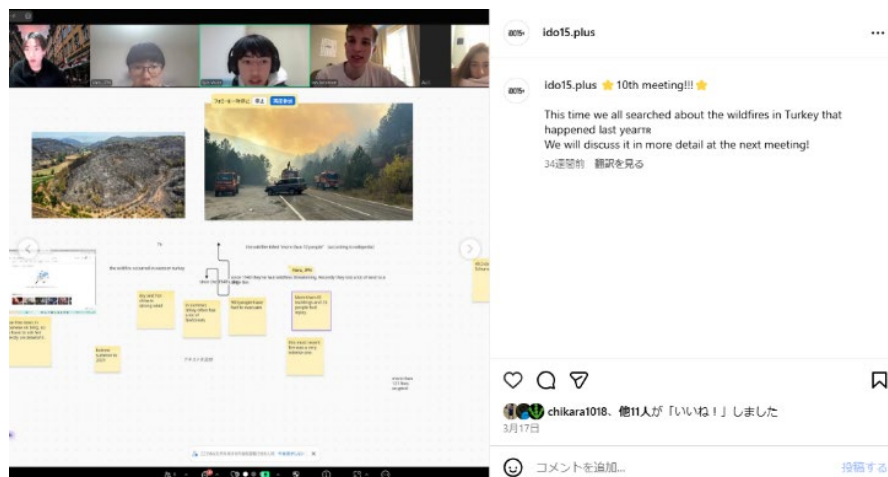


写真 1 第 10 回ミーティングの様子を発信したもの



写真 2, 3, 4, 5 SNS での東日本大震災遺構訪問のレポート

参考文献

- 1) マイナビニュース：東日本大震災後の海外からの義援金，1 位は米国・2 位は台湾・3 位タイ（出典：日本赤十字社）<https://news.mynavi.jp/article/20130405-a207/#>（参照 2024-04-12）
- 2) 吉富志津代：グローバル社会のコミュニティ防災 多文化共生の先に，（大阪大学出版会）
- 3) 塚本剛志（2010）「ハイチ大地震と復興支援を巡る国際関係」『ラテンアメリカ・レポート』,27,p. 79-86
- 4) 河田恵昭（2005）「人と防災未来センターと国際防災の取り組み」
- 5) Data Start：意識調査の設計 <https://www.stat.go.jp/dstart/point/seminar/02/1-1-1.html>(参照 2024-3-31)

Note:

iDo15+

The Community for Creating Borderless Awareness of Natural Disaster

Kotaro Inui¹, Harumichi Ueno¹, Kyle A Youtz¹

¹ Nagata high school students

Abstract

In this world there are many kinds of natural disasters happening every day. However, it is hard to keep track of them. Therefore, we researched how to raise awareness of natural disasters which don't occur in your own country. We made an international community named "iDo15+". We invited teenagers from 7 different countries to participate. We hold online meetings about 2 times a month and record the change of interest and knowledge from the questionnaire answers submitted. We found that the members' knowledge about other countries' natural disasters had increased with each meeting. Increasing interest and knowledge may lead to more mutual aid. Natural disasters keep occurring and will occur in the future too. This community is important so that youth can help each other in the future.

Keywords: Natural disaster, international community for high school students,